

## 開 議

○**渋谷佐輔議長** おはようございます。

これから本日の会議を行います。

本日の会議に欠席の通告議員は、ございません。

よって、ただいまの出席議員は定足数に達しております。

なお、加藤弘二教育委員長から、本日7日から9日までの会議を欠席させてほしい旨の届け出があり、許可いたしましたのでご報告いたします。

本日の会議は、配付しております議事日程第2号をもって進めます。

### 日程第1 市政一般に関する質問

○**渋谷佐輔議長** 日程第1、市政一般に関する質問を行います。

なお、質問の時間は、答弁を含めて60分以内となっておりますので、ご協力をお願いいたします。

それでは、順次ご指名いたします。

#### 浅野敏明議員の質問

○**渋谷佐輔議長** 順位1番、議席番号2番、浅野敏明議員。

(2番浅野敏明議員登壇)

○**2番 浅野敏明議員** おはようございます。

市政一般に関する質問、1日目の1番目、創

生会の浅野敏明でございます。

このたびの一般質問では、スポーツに親しみ、明るく元気なまちづくりの視点で質問を行いますので、よろしくお願いいたします。

なお、通告書の内容で誤りがございましたので、ご訂正をお願いしたいと思います。

4番の2、第12回商工会議所全国青年部サッカー大会についてでございますが、第14回の誤りでございましたので、ご訂正をお願いしたいと思います。

昭和36年に制定されたスポーツ振興法から50年が経過した平成23年に、スポーツ基本法が制定されました。スポーツ基本法第2条の基本理念では、スポーツはこれを通じて幸福で豊かな生活を営むことが人々の権利であることに鑑み、国民が生涯にわたり、あらゆる機会とあらゆる場所において、自主的かつ自律的にその適正及び健康状態に応じて行うことができるようにすることを旨として推進されなければならないとしています。また、法第4条では、地方公共団体は、基本理念にのっとり、スポーツに関する施策を策定し実施する責務を有しています。また、法第10条では、地方公共団体は、国が定めるスポーツ基本計画をしんしゃくして、その地方の実情に即した地方スポーツ推進計画を定めるよう努めることとされています。また、法第3章第1節スポーツの推進のための基礎的条件の整備等では、スポーツ推進のための基盤となる指導者の養成、施設の整備、学校体育の充実、国際交流・貢献の推進等が定められています。また、第2節、多様なスポーツ機会の確保のための環境の整備では、地域におけるスポーツ振興など、多様なスポーツの機会を確保し、環境を整備するための施策が定められています。また、第4章、スポーツの推進に係る体制の整備では、地方のスポーツの推進に関する重要事項を調査審議するため、都道府県、市町村にスポーツ審議会等の機関を置くことができる規定や、

これまでの体育指導委員にかわり、市町村のスポーツ推進に係る体制の整備を図るため、スポーツの推進のための事業の実施に係る連絡調整やスポーツの実技の指導など、スポーツに関する指導、助言を行うスポーツ推進委員を委嘱することとされています。

このように、スポーツを通じて、健康、幸福で豊かな生活を営むことは地域活性化につながるものと思います。また、スポーツは、大きく生涯スポーツと競技スポーツ、スポーツによる地域活性化に分かれると思います。

まず最初に、長井市の施策において、スポーツの環境整備の一環として生涯学習プラザ運動公園が完成し、今年度からあやめ公園の運動公園の施設整備に着手しており、その活用を含め、スポーツに親しみ、健康で元気なまちづくりの推進は今後の市政運営に欠かせないものと思いますが、市長のスポーツに関する考え方を伺います。

続いて、通告書の1番目、生涯スポーツの推進についてご質問します。

生涯スポーツとは、一人一人のライフスタイルや年齢、体力、運動機能、興味等に応じて、生涯にわたり、いつでもどこでも誰でも気軽にできるスポーツのことだと思います。長井市では、平成26年に策定された教育振興計画、生涯スポーツの推進では、引き続き市民1人1スポーツの推進を提唱しながら、市民のスポーツのニーズに対応し、生涯各期に即したスポーツを推進し、スポーツ人口の拡大や競技力向上、健康の増進を図るとしています。取り組みの目標として、成人の週1回以上のスポーツ実施率を60%、週3回以上のスポーツ実施率を30%程度とすることを目標とし、成人のスポーツ未実施者の数をゼロに近づくことも目標としています。目標達成のための具体的な施策はどのようにされてるのか。また、今後の計画など、教育長に伺います。

ことし10月1日に、日本のスポーツ行政を総合的に推進するスポーツ庁が発足しました。競技スポーツだけでなく、誰もがスポーツを楽しめる社会を目標としています。そのスポーツ庁では、去る10月12日の体育の日に合わせて、平成26年度の体力・運動能力調査の結果を発表しましたが、長井市民、特に児童生徒の運動能力について把握しているのでしょうか。教育長に伺います。

文科省の調査結果では、高齢者で向上傾向が続き、子供の反復横跳びなどの体力が向上した反面、ボール投げなど低下傾向で、伸びる能力と低迷する能力の二極化傾向にあるようです。また、運動能力調査は、6歳から79歳の男女6万5,000人を対象に実施しているようですが、県内のデータも含まれている調査でしょうか、あわせて教育長に伺います。

スポーツ基本法で規定されているスポーツ審議会、スポーツ推進委員のメンバーの構成と役割について、教育長に伺います。特に市民1人1スポーツを推進する上で、スポーツ推進委員の役割は欠かせない存在だと思いますが、主な活動の内容と報酬を含めて、市としての支援について、教育長にあわせて伺います。

次に、2番目の総合型地域スポーツクラブについてご質問します。

生涯スポーツを推進する上で、総合型地域スポーツクラブ、以下地域スポーツクラブとします。は欠かせない組織であり、地域スポーツクラブに期待される効果は地域のスポーツ振興とにぎわいづくり、2つ、住民参加による地域コミュニティの活性化、3つ目、いろいろな運動やスポーツの体験、4つ目、高齢者の居場所づくりや生きがいづくり、5つ目、健康保持、増進と体力向上などが上げられると思います。長井市内の地域スポーツクラブは、平成19年2月に西根ときめきスポーツクラブ、平成25年2月に長井花のまちスポーツクラブが設立されて

いますが、それぞれの会員数の推移及び主な活動とそれぞれの地域スポーツクラブの課題について、生涯スポーツ課長に伺います。

地域スポーツクラブは、多種目、多世代、多志向を特徴として、全国で数多くの地域スポーツクラブが設立され、山形県においても、34市町村83団体が設立されています。それぞれ地域コミュニティの核として、スポーツを通じて地域を活性化する役割が期待されています。しかし、財源や会員の確保を初めとして、各種課題を抱えている地域スポーツクラブが多いと思われませんが、ことし3月に、日本体育協会で行われた総合型スポーツクラブの持続可能な推進に向けた指針・評価指数における当市の地域スポーツクラブの自己点検、評価の結果はどのようになったのか、生涯スポーツ課長に伺います。あわせて、市としての地域スポーツクラブの支援策についても伺います。

地域スポーツクラブの会員数の拡大を図るには、環境整備が最も重要だと思いますが、会員やスポーツ愛好者が望む施設の環境整備はどのようなものがあるのか、生涯スポーツ課長に伺います。

次に、3番目の一般競技スポーツと学校スポーツの現状についてご質問します。

市内には、一般の競技スポーツクラブ、スポーツ少年団、学校の部活動など、数多くのスポーツ団体があると思いますが、種目ごとの団体数と人数について、生涯スポーツ課長に伺います。また、スポーツ団体のうち、市の施設を練習場所として週2回以上使用している団体数と人数、学校の部活動は学校以外の施設を使用している団体として数をお願いしたいと思います。また、そのうち週3回以上使用している団体数についても、生涯スポーツ課長に伺います。

各スポーツ団体とも、練習場所確保に苦慮していると思いますが、年間の練習場の予約はどのように配分されているのか、生涯スポーツ課

長に伺います。

平成29年7月28日から8月20日にかけて、全国高等学校総合体育大会、いわゆるインターハイが開催されます。インターハイは教育活動の一環として、高校生に広くスポーツの実践の機会を与え、技能の向上とスポーツ精神の高揚を図り、心身ともに健全な青少年を育成することを目的としています。開催競技は、山形県、宮城県、福島県の3県で30競技34種目で、そのうち山形県では、陸上競技、体操、バレーボール男子、バドミントン、ソフトボール、レスリング、登山、ホッケー、カヌーの9競技10種目が開催され、ソフトボール競技は、長井市を初め南陽市、白鷹町で開催されることになるようです。特に山形県開催の競技種目は、開催県としてふさわしい成績が期待されていますので、選手強化や練習場所確保など、競技団体はもとより、体育協会や市町村の手厚い支援も必要になると思います。

インターハイに係る山形県の参加者は、選手、監督で1万2,200人、観客数で20万人と見込んでいるようですが、長井市で開催のソフトボール競技大会に係る選手、観客などの見込み人数はどのぐらいになるのか、教育長に伺います。また、インターハイのソフトボール競技大会概要と開催に向けて、長井市としての支援策について、教育長に伺います。あわせて、実施に向けた準備体制についても伺います。

次に、4番目のスポーツによる地域活性化と環境整備についてご質問します。

生涯学習プラザ運動公園の3種公認の陸上競技場が完成し、陸上競技を初めとする選手強化に大きく寄与すると思いますが、今後は施設を有効に活用し、地域の活性化に結びつくような取り組みも必要になると思います。

毎年開催される長井マラソンや山形県高校駅伝大会、各年開催される東北高校駅伝大会など、多くの選手や応援などの観客が長井市において

になりますが、経済効果に余りつながっていないように感じられます。長井市の宿泊施設のキャパシティーはどの程度あるのか、宿泊施設ごとの収容能力を生涯スポーツ課長に伺います。これは、高校駅伝大会を例にとりて、全体の宿泊者数と長井市の宿泊施設と宿泊者の人数でお答えをお願いします。

多くの選手や関係者が宿泊する大会であり、経済効果に対する期待も大きいと思います。スポーツ等の大きなイベントでは、選手はもとより応援などの観客も多く訪れていると思いますが、どのぐらいの人数になっているのか、平成27年度の長井マラソン、山形県高校駅伝大会などの概算人数で結構ですので、お願いいたします。生涯スポーツ課長にこの質問はお願いしたいと思います。また、会場付近で長井の観光案内と長井名産などの観光販売ブースがあれば、経済効果と長井のPRにもなるのではないかと思います。検討すべきでないでしょうか、あわせて伺います。

平成26年7月に、静岡市で開催された第12回商工会議所全国青年部サッカー大会キャプテン会議において、長井商工会議所青年部会長を初め、内谷市長もおいでになり、平成28年度の長井大会誘致のプロモーションの結果、長井大会が決定となりました。市長みずからプロモーションに行かれて誘致に成功したことに敬意を表したいと思います。

第14回商工会議所青年部サッカー大会長井大会の日程や参加者予定人数など、大会概要について、市長に伺います。長井市が主会場となる全国的な大きなイベントでもあり、全国に長井の魅力を発信する絶好の機会でもあります。開催に合わせて長井市独自のイベントを開催することでさらに地域活性化に結びつくと思いますが、あわせて市長の考えをお伺いします。

教育振興計画、生涯スポーツの推進では、スポーツツーリズムの推進を掲げていますが、具

体的な取り組みの計画について、教育長に伺います。スポーツ合宿誘致と長井の祭りの融合として具体策を上げていますが、合宿誘致の取り組みについても、あわせて伺います。

長井市におけるスポーツイベントがあっても、宿泊施設のキャパシティーが少ないことで、赤湯温泉など、市外の施設に宿泊者が流れ、長井市の経済効果に大きく影響することになりますので、民泊についても検討すべきだと思います。国家戦略特区取得など、ハードルが少し高いと思われませんが、廃業した旅館を市で借り上げて、宿泊所とすることなども含めて検討すべきではないでしょうか。市長の考えを伺います。

以上で壇上からの質問を終わります。ご清聴ありがとうございました。（拍手）

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** おはようございます。

浅野敏明議員から、スポーツに親しみ元気なまちづくりについてということで、私は3点ほどご質問いただいておりますので、順次お答えをさせていただきたいと思います。

まず最初に、生涯学習プラザ運動公園やあやめ公園、運動施設を活用し、スポーツに親しみ、健康で元気なまちづくりの推進は、今後の市政運営に欠かせないものと思うが、市長のスポーツに対する考え方はというご質問でございます。

やっぱりスポーツの持つさまざまな機能、魅力ということについて、まず最初に申し上げますと、3つぐらいあるのかなというふうに思っています。まず最初は、健康づくりと、これはもちろん肉体的なものや精神的なものがあると思います。スポーツを通じて健康な体をつくり、そして、同時にストレス解消などの精神面でのリフレッシュもできるという点でございます。あと、2点目は、やはり生きがいづくりとか趣味、そして、仲間づくりという機能があると。あと、3つ目が、議員もおっしゃるように、スポーツツーリズムっていいですか、スポーツ

を通して地域の活性化に資することができるんじゃないかなと。スポーツということで交流や観光などを進めることができ、地域の経済にもいろんな意味で大きくプラスの効果をもたらすということで、そういった意味では、スポーツというのは、行政と見ても非常に重要な分野だなというふうに思っているところでございます。したがって、生涯スポーツ課ということで、もう6年、7年目ぐらいになるでしょうかね。一つの課にしたっていうのは、それぐらいスポーツを重要視していかなきゃいけないだろうという考え方でございます。

生涯学習プラザの運動公園が今年度オープンいたしまして、こけら事業として開催した西置賜地区の陸上競技選手権大会では、8つの大会新記録が出ましたし、選手個人の自己記録更新も多かったと聞いております。その後の大会でも好評を得ておりますので、長井市の陸上競技場として順調にスタートしたと考えておりますが、こういったスポーツ施設の整備というのは、現在進めております市営球場の野球場のリニューアル等含めて、大分市内の施設は老朽化しておりますし、今後ともそういった整備に力を入れていきたいというふうに思います。そして、スポーツを楽しむ、楽しくスポーツ観戦をする環境が整う、現在途中でございますけれども、今後とも議会からもご理解いただいて整備してまいりたいと考えております。

2点目のスポーツによる地域活性化と環境整備についてでございます。

議員からは、来年の第14回の全国商工会議所青年部サッカー大会についてでございますが、大会日程と参加予定人数を含めた大会概要について、また、長井市が主会場となる大きなイベントで長井市を全国に発信する絶好の機会ということから、開催に合わせて長井市独自のイベントなどはいかがかというようなご提言も含めてのご質問でございます。

ご質問ございました商工会議所青年部全国サッカー大会長井大会の実施概要についてお答えをしたいと思います。

初めに、日程でございますが、平成28年7月1日金曜日から3日、日曜日に開催予定。3日間ということの予定でございます。また、参加対象は、全国の商工会議所青年部会員や商工会議所職員となっております。参加チーム数は、現在のところ44チームで、参加者総数が約880人と見込んでいるようでございます。28年度の大会主催者は、長井商工会議所青年部会となっております。山形県商工会議所青年部連合会や長井地区及び米沢地区サッカー協会、試合会場となる各自治体報道機関が後援となっております。

議員からもありましたように、昨年静岡のほうに、ちょうど最終的に決まるということで、金沢市と長井の争いでございました。大方では金沢だろうと、新幹線も開通して翌年ということもあって、金沢ということが大部分、大方の見方だったんですが、青年部の働きかけで商工会議所の会頭と私も一緒に行って、やっぱり地域を挙げて応援するんだという、その熱意が最後決め手となって決定したものと思っております。前回までの大会っていうのは、地方では県庁所在地とか、静岡みたいに政令都市とか、単独で開催しております。今回の長井大会というのは、もちろん長井だけでは会場が足りませんので、白鷹、南陽、米沢と、あとそして、長井ということで、4会場をうまく連携をとってということで、これがやり方によっては非常に魅力的なんです。少し間違えばやっぱり何だということになる、そういったことのないように頑張らなきゃいけないと思っているところで

大会プログラムについては、初日に監督会議及び開会式、2日目の土曜日に予選リーグが置賜管内7会場にて実施されます。また、これが

問題なんです、大懇親会って、私も去年の静岡大会行ってまいりましたが、1,000名以上いるんですね。入れる会場がないです。会議所青年部の実行委員会として、参加人数等の関係やバス等の駐車場の確保等も考慮して、置賜生涯学習プラザで開催するしかないのかなというふうです。ただ、私としては、そうしますと、宿泊も長井だけでは当然できないので、白鷹、南陽、また飯豊も、あるいは米沢もあるということですから、そうなると、そのまま学習プラザで親睦会したら帰ってしまうんじゃないかということで、こここのところにちょっといろんな工夫が必要なのかなと思ってるんです。最終日になる日曜日に、決勝トーナメント及び閉会式で終了となります。したがって、2日目の土曜日までは全員、予選で敗退したチームは日曜日の午前中帰られるということになるんだと思います。既に商工会議所青年部において、開催に向けた準備の企画検討、決定事項の確認が行われているようで、年内にも大会会場や大懇親会の会場、スケジュール等の内容をホームページに立ち上げて周知することで進められているようです。

2つ目のご質問でございますが、本大会の開催時期が7月初めで、あやめまつり実施期間中でございますので、お越しいただいた方々には、ぜひあやめ公園に立ち寄っていただくよう、商工会議所青年部を通じて働きかけをしていきたいと思っております。また、この大会に合わせたイベントではございませんが、7日2日土曜日については、長井踊り大パレードも予定されております。積極的に情報発信して活性化に結びつけられればと思っております。したがって、この2日の夜は長井踊りでかなりまちなかにはぎわいますので、最初、つつじ公園の駐車場に大きなテントを張ってやりたいと、屋外で。屋外で今までそういった懇親会をやったことないそうで、これぜひ検討したいんですが、そのテントのリ

ース料が莫大だということで、非常にこれがネックになっているようです。そこですと、長井踊りに飛び入りで参加なども勧められますし、いろんな趣向を凝らせるんじゃないかなと思っておりますが、今後どうするかについては、関係課と打ち合わせしたり、あるいは会議所と協議をしなきゃいけないと思っておりますが、やはりこの時期は、あやめと同時にサクランボと、あと米沢牛の時期だということで、長井としては、例えば、市内のラーメン屋さんやそば屋さん、あるいは焼き肉屋さんで米沢牛とか長井のおいしい食べ物をいろいろ食べれるような特別券などを発行したり、あるいは、最初、そのテントで米沢牛の焼き肉パーティーを、もう何百人、1,000名ぐらい入れるようなところでやったらいいんじゃないかと。あわせて来年スタートする観光プラットホームでほかの観光客もそのテントを利用して、米沢牛の焼き肉を食べれるんじゃないかと。米沢牛の焼き肉っていうと、相当お客さんが呼べるということのようですので、その辺なども考えていきたいというふうに思います。

最後に、スポーツツーリズムの具体策についてということでございますが、議員ご指摘のとおり、やっぱり長井市内で、後ほど担当課長のほうからあるかと思いますが、宿泊施設の収容能力の点からいえば、なかなかこの880名、関係者も含めれば1,000名超える可能性ありますけども、例えば、山形県の高校男女の駅伝競走大会、それから、東北高校男女の駅伝競走大会、山形県は毎年、あと、東北は各年でございんですけども、やはり関係者が相当程度、700名から1,000名ぐらい、あと、高校駅伝の場合は、保護者などの応援団も来ますので、しかも、駅伝の場合、もう1泊ではなくて、最低3泊ぐらいする可能性が高いですね。2泊は当然ですけども。そういったことで、何とかこの地域の宿泊、飲食、さまざまな面で潤うようにというこ

とをやってきましたが、残念ながら、長井だけでは到底収容し切れないので、ほかのまちへ行ってると。そういった意味では、議員おっしゃることもごもっともだなと。

ただし、市としては、かつて長井ダムのJ Vの宿舎を譲り受けるという、無償でもらえるということだったんですが、ちょうど、議員もご承知のとおり、姉齒の耐震偽造のことがあって、全部基礎を打ち直さなきゃいけないということで、それで莫大なお金がかかることから、財政再建中で取りやめにしました。ああいったようなことですといいでしょけれども、これを市で購入して直営するっていうのはなかなか大変じゃないかなと。したがって、農家民宿のような民泊をやっぱり進めるようなやり方だろうなと。ただし、スポーツ選手ですから、いろんな条件があるので、果たしてどこまでできるかですけれども、そういったことを検討していきたいと、そのように思っております。

そういったことがスポーツ以外のいろんな意味で長井にお客様が滞在できる、そんな機能にもつながると思っておりますので、今後ともいろんな意味で検討したいと思えます。以上でございます。

○**渋谷佐輔議長** 加藤芳秀教育長。

○**加藤芳秀教育長** 私からは、生涯スポーツの推進についてお答えいたします。

方向性としたしましては、スポーツに親しむ活動の推進を掲げております。施策としては、生涯学習プラザを拠点に位置づけて、いつでも誰でもスポーツに親しめる環境の整備を進めることと考えてございます。それを担うのが総合型地域スポーツクラブ、長井花のまちスポーツクラブであり、スポーツ教室やスポーツフェスティバルの開催、市報、ホームページ、会報でスポーツの楽しさ、スポーツの効能、大切さをお知らせし、参加していただくよう取り組んでいるところでございます。今後も定期的に参加

できるよう、会員をふやし、週1回のスポーツ実施率を高めていきたいというふうに考えてございます。

体力・運動能力調査の結果についてのご質問でございますが、児童生徒の体力、運動能力につきましては、市内においても、毎年体力・運動能力テストを行い、各学校での結果の集計及び分析を行っております。市内全体の分析も行っておりますが、長井市の子供たちの実態は、おおむね全国平均並みかそれを上回っているというふうに捉えてございます。

例えば、平成26年度の小学校5年男女では、16種目中10種目で全国平均を上回ってございまして、他の6種目も若干全国平均を下回った数値であります。また、中学校2年男女でも、16種目中11種目で全国平均を上回っておりまして、他の5種目もほぼ全国平均並みというふうに考えております。特にうれしい結果が出ているのは、小学校低学年でございまして、ながいアクティブキッズの幼児期の運動習慣の取り組みをしていたその成果が出ておりまして、他の学年よりも、特に投運動ですね、物を投げるあたりが県の課題でもありましたけれども、そういう面でも力を出しているなというふうに思っております。幼児期から運動に親しむ経験を積ませているというのが非常に大事なことだと再認識したところでございます。

各データが県内のデータに今含まれているかというご質問でありましたが、それぞれの年代区分ごとの標本数というんですかね、抽出しているふうになってございますので、山形県のデータも標本数の中に当然入っているというふうに認識しているところでございます。

それから、続いて、スポーツ推進委員の役割等にかかわるご質問でございました。

スポーツ推進審議会委員は、学識経験者5名と市内小・中・高校の代表3名の8名が委員で

ございまして、生涯スポーツ事業の取り組み、体育施設の維持管理状況、体育施設整備の計画等を審議いただいております。学識経験者として、市体育協会会長、長井市スポーツ推進委員会会長、長井市スポーツ少年団本部長、長井市体育協会常任理事、総合型地域スポーツクラブ役員5名、小・中・高校の代表として、各学校長3名となっております。また、スポーツ推進委員は、各地区からの推薦をもとに委嘱してございまして、現在、中央地区が5名、致芳地区4名、西根地区3名、平野、伊佐沢、豊田の各地区は2名ずつ、それに公募の委員2名を加えた20名で構成されております。役割としては、スポーツの推進のための事業の実施、それに係る連絡調整並びに市民の方に対するスポーツの実技指導などを行っていただいております。

また、スポーツ推進委員の活動内容に報酬を含めた市の支援というふうについてのご質問にお答えします。

スポーツ推進委員の皆さんが所管されている事業としては、ソフトバレーボール大会とスポーツごみ拾い大会がございまして、協力事業としてお務めいただいているのが、各種駅伝競走大会と白つつじマラソン大会、長井マラソン大会、そして、少年少女なわとび大会がございまして、そのほか、全国東北地区で開催されます研修大会でそこで研さんを積んでいただいているところでございます。報酬については、年額3万2,000円をおあげしているところでございます。また、統一したジャージで活動していただいておりますので、新規の委員の方の分は準備して支給しているところでございます。また、現在着用しているウインドブレーカーが15年経過しているということで、更新の要望もあって検討しているところでございます。

それから、29年度開催のインターハイについてでございます。

参加見込みでございましたけれども、ソフト

ボール競技は、長井市のほか、南陽市と白鷹町が会場になりますので、長井市で試合を行う選手、監督が400人、そして、観客数はソフトボール女子は保護者の応援も多いというふうになっておりますので、そこを勘案して6,500人と予測しているところでございます。また、大会概要、そして、長井市としての支援策、準備体制等についての質問がございました。

大会概要については、平成29年7月29日から8月2日、長井市会場の試合は8月1日までというふうになっております。開会式については、長井市で7月29日に開催。会場については、生涯学習プラザ陸上競技場というふうに考えております。閉会式については、白鷹町で8月2日。参加校数が47都道府県から1校ずつプラス開催地ということで、48校というふうになっております。試合会場については、長井市野球場で1面、それから、あやめ公園多目的広場、市営グラウンドで1面という。あと、白鷹町に3面というふうな会場予定でございます。

準備体制としては、ことし近畿大会の滋賀県守山市の大会を視察してございまして、来年28年6月に、現地長井市実行委員会を設立いたしまして、受け入れ体制の準備をし始めるということになっております。それから、28年7月から8月に中国大会がございましてその視察、広島県の尾道市に派遣するということになっております。支援策といたしましては、市営野球場、多目的運動広場の整備をリニューアルを行うということが一番大きなところかと思っております。加えて、先ほど申し上げた実行委員会をつくって受け入れをしっかりとしていくということになるかと思っております。

それから、スポーツツーリズムの具体的な取り組みの計画ということでございますが、長井市では、県内唯一のフルマラソン大会であります長井マラソン大会、白つつじマラソン大会、県東北高校駅伝競走大会、マラソンのまち、駅



伝のまちとしてPRしておりますが、さらにしっかりと観光などにもつながるようにということで、大会終了後、あるいは前日にしっかりと泊まっていただいて、観光とスポーツの連携ということについては、観光地域づくりプラットホームとの機能も生かしながら、交流人口の拡大に向けて情報発信をしていく必要があるというふうに考えております。

さらにスポーツ合宿、長井のまつりの融合等については、白つつじまつり期間中において、白つつじマラソン大会を開催しております。そこ宿泊というのはなかなか結びついていないのかなということもありますし、今後、生涯学習プラザ運動公園活用の合宿の利用ということなどについても、その誘致に向けた取り組みについても、また今後取り組んでいく必要があるなというふうに思っております。今までも黒獅子まつりに合わせて、中学生の練習大会のような形で、非常に多くのチームが訪れて宿泊していたという例などもありますので、そういう要望というんですかね、可能性はかなりあるのかなというふうに思っております。以上でございます。

○**渋谷佐輔議長** 佐野安広生涯スポーツ課長。

○**佐野安広生涯スポーツ課長** 総合型地域スポーツクラブについてということでお答え申し上げます。

西根ときめきスポーツクラブにつきましては、西根地区全戸が運営協力金を支払っております。950戸程度で推移してございます。会員数は150名前後ということでございます。活動につきましては、スポーツ教室、スポーツ大会。スポーツ大会といたしましては、パークゴルフ大会やグラウンドゴルフ大会。あと、各種スポーツのルール教室などを開催いたしまして、多世代交流が楽しめる地域づくりを目指しております。

課題といたしましては、マネジャー、アシス

タントマネジャーなどの配置など、組織の強化に向けた対策かなというふうに考えてございません。

花のまちスポーツクラブの会員数は、スタートした平成25年度が108名、26年度が95名、平成27年度は、ペア会員、あと、後期会員等の新設で170名となっております。会員拡大に工夫して今取り組んでおるところでございます。活動といたしましては、スポーツ教室、スポーツイベントの開催のほか、運営委員会を定期的に開催いたしまして、生涯学習プラザを拠点として、スポーツが気軽に楽しめる環境づくりに取り組んでおります。

課題といたしましては、安定した組織にするための財源の確保ということになるのかなというふうに考えてございます。

次の地域スポーツクラブの自己点検評価の結果ということでございますけれども、こちらは、実施してございません。こちらにつきましては、総合型クラブがモデル事業として取り組んでから約20年が経過したということで、運営を担っていただいております。いわゆる第一世代が次の世代に引き継ぐというような時期が来ましたので、そういう観点から、今後取り組むべき事項が一目で容易にわかるようにこのような評価指標を作成したということで、この辺の自己点検については、今後の検討ということのようでございます。

続きまして、クラブに対する支援策でございますけれども、西根ときめきスポーツクラブにつきましては、最初の運営当初は補助金等の支援も行っておりましたけれども、現在は、倶楽部通信という広報紙の全戸配布を市報の発送と同時期に行っております。長井花のまちスポーツクラブに対しましては、総合型地域スポーツクラブ支援事業補助金として、平成26年度決算で675万3,000円を支出してございます。そちらの財源の内訳として、303万5,000円がスポーツ

振興くじの助成ということでいただいておりますところでございます。

クラブ会員、スポーツ愛好者が望む施設の環境整備ということでございますけれども、主なものとしては、トレーニングジムの開設、あと、続いて交流スペース、お茶を飲めるような場所ということでございますけれども、そのようなものの開設。あとは、冬期間の体育館の暖房設備という3点が多く要望のあるものということでございます。

次に、一般競技スポーツと学校スポーツの現状ということで、現在のスポーツ団体の状況でございますけれども、市内の体育施設と市内小・中学校の体育館夜間開放の状況でございますけれども、10団体以上の活動の多いものでございますが、バレーボールが29団体489名、サッカー、フットサルが16団体356名、バスケットボールが15団体256名、バドミントンが13団体318名、テニスが13団体242名、卓球が13団体205名というふうな形になってございます。

市の施設の利用の状況でございますけれども、2回以上使っている団体は、39団体、登録者数で787名でございました。3回以上につきましては、15団体、登録者数は390名というような状況でございました。

次に、予約の配分等でございますけれども、市内小・中学校体育館の夜間開放事業に関しましては、年度末の市報等でお知らせをしております。年間を通して定期的にスポーツ活動をする5人以上の団体が申請できるということで、学校ごとに設置してございます運営委員会で調整いただいて、登録、申請をして、許可を受けて活動してる状況でございます。市民体育館につきましても年間通して活動する団体については登録をいただいていると。生涯学習プラザ体育館につきましては、各種競技の県大会と、その予選大会等がございますので、そちらを計画する競技団体から前年の12月末までに日程調

整計画書を提出いただきまして調整を行って、その後、一般の方からの申し込みを受け付けしてございます。時期としては、2カ月前から受け付けをしている状況でございます。

次に、スポーツによる地域活性化と環境整備ということで、長井市の宿泊施設関係でございますけれども、長井市内の宿泊施設の定員を合わせますと547名になるようでございます。

ことしの東北高校駅伝に関してでございますが、高体連のほうでエージェントを通して宿泊施設を確保いたしまして、各学校でそこに宿泊の申し込みをするという形をとっておりました。市内の施設に関しては、先ほど547名の収容能力ということになりますけれども、そのうちの495名分を確保しておりまして、宿泊した実績といたしましては延べ624名分の宿泊ということでございました。大会全体でエージェントを通した宿泊でございますが、延べ1,509名ということでございました。

次に、訪れる観客数ということでございますけれども、東北高校駅伝につきましては、平日開催でございましたけれども、各県の代表ということでコースや中継所の位置などの照会が多くありました。高校生の方の祖父母に当たる方が、うちの孫が走るので応援に行きたいと、コースとか食事どころを教えてほしいといった内容の照会が多くございました。強豪校につきましては、保護者を中心に応援をいただいているようですので、おおむね選手と同数程度の700名程度に来ていただいているのかなというふうに考えてございます。

物産販売につきましては、地場産業振興センターのほうで売店というか出店してございますので、そこで他県からのお客様ですので、長井市なり山形のお土産というものを購入いただいているというような状況でございます。

以上でございます。

○渋谷佐輔議長 2番、浅野敏明議員。

○2番 浅野敏明議員 それぞれ丁寧な対応ありがとうございました。思ったより時間がなくなりましたので、ちょっと前後させてもらいますが、生涯スポーツ課長に伺います。

環境整備の関係ですけれども、あやめ公園の運動公園のテニスコートの整備につきましては、地域スポーツ施設整備助成、いわゆるスポーツ振興くじ、t o t oとも申しますが、を活用して実施する計画とお聞きしていますが、今後の手続について伺います。

○渋谷佐輔議長 佐野安広生涯スポーツ課長。

○佐野安広生涯スポーツ課長 お答えいたします。

現状でございますけれども、あやめ公園運動施設全体の整備とかかわってきますので、野球場とグラウンドの整備の進捗ともかかわってくるのでございますが、考え方といたしましては、平成28年度中に設計をしたもので、平成29年度のスポーツ振興くじ事業のほうに申請いたしまして、29年度の工事というふうに考えてございますけれども、29年度、インターハイがございますので、夏場の大会がございますので、29年度、工事を実施するという事になったときに、その前にできるのか、後にしなくてはいけないのかというようなところをちょっと検討しなければいけないのかなというふうなことで現状進めているところでございます。

○渋谷佐輔議長 2番、浅野敏明議員。

○2番 浅野敏明議員 29年度の助成を受けるといようなお話でしたけども、そうすると28年度中に申請というふうになりますか。

○渋谷佐輔議長 佐野安広生涯スポーツ課長。

○佐野安広生涯スポーツ課長 28年度中の説明会が毎年11月ごろにございます。年度ごとの予算でございますので、取り組む事業、通常同じような事業が続くというふうに予測してございますが、そこで説明会を受けて、その後の準備ということになるかと思えます。

○渋谷佐輔議長 2番、浅野敏明議員。

○2番 浅野敏明議員 多分28年度中の申請になるかと思えます。その申請時には実施計画書的なものも必要になりますので、単独で少し見なければならぬ部分がございますので、少し検討をお願いしたいというふうに思えます。

時間ありませんので、長井花のまちスポーツクラブについて、伺いたいと思えます。

地域スポーツクラブにつきましては、先ほど申しましたようにスポーツしたい人、それからできない人を引き込めるか、これが鍵だと思います。スポーツにお金を払ってでもいいと思うような質の高いサービスの提供が必要だと思います。将来的に地域スポーツクラブとして自立運営できるよう、会員拡大を図る必要がありますが、今後の展望と目標とする会員は何名ぐらいになるでしょうか。生涯スポーツ課長に伺います。

○渋谷佐輔議長 佐野安広生涯スポーツ課長。

○佐野安広生涯スポーツ課長 お答えいたします。

クラブのほうともいろいろ情報交換させていただいてますけれども、会員数は多ければ多いほどよいというふうなことになるかと思うのでございますけれども、現在検討しておる中身で賛助会員の拡大というのもございまして、そちらと、あと会員の数もある程度確保しなくてはいけないわけですが、参加者、いわゆる会員でなくても入れる、会員になって入っていただくのが基本かと思えますけれども、そのようなところをいろいろ試算をしてみたところですが、結論としてははっきりした数字は出ておりませんでした。

会員の方をふやすと、今度なかなかスポーツ教室等の開催をする場所を考慮しなくてはいけないというふうなところがございまして、現状の生涯学習プラザの体育館等を使ってやるというふうなところで、最大のところでは500名程度の会員がいれば、参加者の動きがあってもある程度のところの運営はできるのかなというふうなところは1回試算したというふうな状況

がございます。

○**渋谷佐輔議長** 2番、浅野敏明議員。

○**2番 浅野敏明議員** ありがとうございます。

じゃあ、最後になりますが、個人会員の拡大はなかなかハードルが高いと思います。自治公民館や企業などが団体会員として加入することも検討すべきだと思いますが、生涯スポーツ課長に伺います。

○**渋谷佐輔議長** 佐野安広生涯スポーツ課長。

○**佐野安広生涯スポーツ課長** その件につきましては、現在団体会員の区分を設定するというところで検討しておりまして、今後、総会なり理事会等で決定をいただくということで準備を今進めておるところでございます。

○**渋谷佐輔議長** 2番、浅野敏明議員。

○**2番 浅野敏明議員** あと、質問はございませんが、今後いろいろなスタッフ、それから指導者、財源確保といろいろな課題が多くあるかと思えます。t o t oの助成だけでなく、文科省のスポーツによる地域活性化推進事業などもあるようでございますので、ぜひ研究していただいて、今後の持続可能なクラブになるよう今後ともよろしくお願いしたいと思います。

以上で質問は終わります。

## 五十嵐智洋議員の質問

○**渋谷佐輔議長** 次に、順位2番、議席番号12番、五十嵐智洋議員。

(12番五十嵐智洋議員登壇)

○**12番 五十嵐智洋議員** 先日行われました市民との意見交換会に初めて参加させていただき、貴重なご意見やご要望を賜り、大変参考になりました。中に私の父を覚えてくださった方から、あなたのお父さんは大きな夢を語ったものだ。今の議員も瑣末なことにこだわらず、夢

のあることを話ししてもらいたいと心強いエールを頂戴いたしました。

6月議会で、女性の結婚、妊娠、出産を理由に企業が退職を迫ったり、不利な労働条件を押しつけるマタニティーハラスメントが、現在の取り返しのつかない少子化、人口減少につながった要因であることを申し上げました。県庁や県内各市が収納代理事務を委託する金融機関では、何十年來、女性行員が結婚すると望まなくてもほぼ全員が退社せざるを得ない事実を上げ、山形県の金融機関ほか主要な企業が率先して労働基準法を守り、少子化を防ぐべきだと20年前もこの壇上から訴えました。

自治体の人口の将来展望を示す最新の地方人口ビジョンでは、山形県は45年後の2060年人口が79万人となり、現在の119万人から32%も減少すると推計されています。これは、全国都道府県で悪いほうから5番目のお寒い数字であります。

マタニティーハラスメントがなくなれば、少子化に劇的な歯どめがかかります。マタハラを撲滅し、地域を人口減少から救うのが私の信念であり夢でありますので、今後もあらゆる機会働きかけていきたいと考えております。

さて、先月末の山形新聞紙上で、本町のヨークベニマル長井店が来年2月末に撤退するとの記事が掲載されました。ヨーク長井店は、タウンセンタービルのキーテナントで、29年7月まで契約を延長したものの、それ以前の撤退がうわさされ、現実となったことに多くの市民は驚き、ヨークが出たあとがどうなるかが市民の大きな関心事であり、また不安材料でもあります。

同店は昭和63年、まさにバブル期絶頂のときに開店しました。当時の長井市、飯豊町、白鷹町をあわせた人口は現在より1万人以上多く、ほかに郊外の大店はなく、コンビニエンスストアもなかった時代、ヨーク長井店には市内外から客が押し寄せ、開店当初の年商は40億円に